

contents

- ・ 新任教授紹介
 - 呼吸器内科 滝澤始教授
 - 心臓血管外科 窪田博教授
 - 血液内科 高山信之教授
- ・ 平成 23 年度杏林学園入職式
- ・ 診療科紹介
 - 乳腺外科・腎臓・リウマチ膠原病内科
- ・ 医師ら 4 名が医療支援で被災地へ
- ・ 平成 23 年度公開講演会



【杏林大学医学部付属病院】
〒181-8611 三鷹市新川 6-20-2
Tel 0422-47-5511 (代表)
<http://www.kyorin-u.ac.jp/hospital/>

■ 新任教授紹介



呼吸器内科
教授 滝澤 始

【所 属】医学部第一内科学（呼吸器内科）
【最終学歴】東京大学医学部卒業
【職 歴】

昭和 54 年 6 月東京大学医学部附属病院内科研修医、昭和 55 年 6 月小平記念東京日立病院内科医員、昭和 56 年 6 月公立学校共済組合関東中央病院第二内科（呼吸器）医員、昭和 59 年 7 月東京大学医学部附属病院物療内科助手、昭和 63 年 4 月アメリカ合衆国ネブラスカ州立医科大学留学、平成 3 年 9 月東京大学医学部附属病院物療内科助手、同 保健センター非常勤講師、平成 8 年 4 月 同 検査部講師、平成 13 年 9 月 同 呼吸器内科助教授、平成 18 年 8 月帝京大学医学部附属溝口病院第四内科教授、平成 23 年 4 月杏林大学医学部教授

このたび第一内科（呼吸器内科）教授に就任しました。呼吸器内科学という長年慣れ親しんできた領域ではありますが新たな職場での出発で、新鮮な気持ちとともにいい意味での緊張感を久しぶりに味わっています。呼吸器は、外界はもちろん体内環境の影響を大きく受けるため、きわめて多彩な疾患が起こります。したがって全身病態を俯瞰し患者さん全体を診る視点がとても大切な分野だと思っています。その意味で呼吸器の専門性を極めつつ全人的医療のできる医師の育成が大切だと思います。私自身はあらゆる呼吸器疾患患者を診療



心臓血管外科
教授 窪田 博

【所 属】医学部心臓血管外科学教室
【最終学歴】筑波大学医学専門学群卒業
【職 歴】

昭和 61 年 6 月東京大学医学部附属病院医員（第 2 外科系研修医）、昭和 62 年 12 月東京警察病院一般外科医師、平成 2 年 7 月東京大学医学部附属病院胸部外科医員、平成 3 年 10 月総合病院国保旭中央病院心臓外科主任医員、平成 4 年 10 月東京大学医学部附属病院胸部外科医員、平成 6 年 6 月 同 助手、平成 8 年 11 月フランスクレルモンフェラン大学心臓血管外科 高度専門インターン、平成 13 年 12 月東京大学医学部附属病院心臓外科講師、平成 14 年 4 月杏林大学医学部心臓血管外科講師、平成 15 年 4 月 同 助教授、平成 23 年 4 月 同 教授

この度、心臓血管外科主任教授を拝命いたしました。杏林大学には平成 14 年より勤務いたしました。本学は各科先生方、薬剤師、臨床工学技士、看護師、理学療法士、検査技師、事務の方々の温かい連携と最新のハードウェアによって、大変恵まれた環境で充実した医療が行える場であると常日頃感じております。当科はそのような環境の下にあつて初めて機能することができ、ことを思うにつけ、日々の皆様のご配慮とご協力に心より感謝申し上げます。心臓血管の外科は、緊急手術や重篤な症例の治療も多く年々手術数が増加する中、手術手技の改良や新しい手術デバイスにも



血液内科
教授 高山 信之

【所 属】医学部第二内科学教室（血液内科）
【最終学歴】昭和 59 年 慶應義塾大学医学部卒業
昭和 63 年 慶應義塾大学大学院医学研究科博士課程修了
【職 歴】

昭和 63 年慶應義塾大学医学部助手（微生物学）、平成元年慶應義塾大学病院内科研修医、平成 3 年水戸赤十字病院内科、平成 5 年慶應義塾大学医学部助手、平成 14 年杏林大学医学部専任講師（第二内科）、平成 17 年杏林大学医学部第二内科学教室助教授、平成 23 年 4 月 同 臨床教授

この度、第二内科（血液内科）の臨床教授を拝命いたしました。これまでご指導を賜りました諸先生方にこの場を借りて深く感謝を申し上げます。血液内科は、臨床腫瘍学としての側面を強くもっており、内科と細胞療法を駆使する内科学的治療のプロフェッショナルであることが要求されています。近年の進歩によって、血液腫瘍の多くは「治癒」が手の届くところまで進んでおり、我々は、あらゆる臨床医学の叢智を結集し、高い目標に向かってひたむきに取り組んでいかなければならない責務を負っていると考えております。血液腫瘍の治療成績の向上には造血幹細胞移植が欠かすことができません。当科では、平成 14 年に自家移植第一例を施行して以来、自家・同種移植と延べ 100 名以上の患者さんに実施してきました。最近では、患者血縁者間移植や臍帯血移植も実施可能となり、患者

さんの多様なニーズに応える体制がようやく整いつつあります。進化し続ける医療に対応すべく、次世代の人材を育成することも我々の重要な使命です。難解・多忙を理由に敬遠されることも多いのですが、あまたの難病に真正面に取り組み血液内科は、学問的にも、患者さんとのかわり合いにあり、医師としての充実感を強く実感できる分野です。これから、是非とも若い人たちに血液内科の魅力を伝えていきたいと思っています。最先端の医療を追求する一方で、治癒が望めなくなつた患者さんに対する暖かい配慮も忘れてはいけません。血液内科の理念は、「病に厳しく、人に優しい医療」です。先進的治療と地域医療の両立を目指して、今後とも微力を尽くしていきたいと思っております。皆様のご支援をこれからもよろしくお願い申し上げます。

私たちは、これからも循環器内科の先生方との緊密な連携をさらに強いものとし、須藤憲一前教授ご指導の下発展してきました当教室の方針を引き継ぎ、より良い均質な医療を提供できますよう臨床、教育、研究の場においてなお一層の努力を継続して行きたいと思っております。病棟で、長い手術に疲れた医局員を見かけられましたらどうぞ一声お願い申し上げます。今後とも変わらぬご指導を賜りますようお願い申し上げます。

してきましたが、とくに気管支喘息、COPD、各種びまん性肺疾患のご紹介を受けることが多いです。呼吸器疾患の病態解明と新たな治療法の開発を目標に、実地臨床に還元できる成果を目指して教室員とともに研究を推進したいと思っております。皆様方のご指導・鞭撻をよろしく願ひいたします。



■平成23年度杏林学園入職式

あずの花がキャンパスに咲きそろいつつある4月1日、平成23年度学校法人杏林学園入職式が行われました。今年度新たに入職したのは看護職が191人、技術職が17人、事務職員が6人の合計214人です。

入職式に先立って、東日本大震災において亡くなられた方々に哀悼の意を表し、一同黙とうを捧げました。

式では国歌斉唱の後、松田博青理事長が式辞の中で「本学園における役割・業務は、学生に対する教育、研究、そして診療であります。私どもはまず第一に、本来の業務であるこれらを行うことのできる体制、すなわち皆さんを含めた教職員、安全の確保、そして学生や入院患者・外来患者さん達の安全の確保といったことを考え、その上で被災者の方々に對してもできる限りのことをしたいと思っています。私どもは精一杯努力をして、皆さん方が働きやすい、より良い環境を作りたいと思っています」と、これから共により良い学園を築き上げていこうと呼びかけました。

つづいて、新入職員を代表して看護職の先崎末裕希さんが「私たちは、建学の精神に則り、職務に専念し、就業規則及び諸規則を順守することを誓約します」と誓いの言葉を述べ、最後に新入職員及び壇上に並んだ役職者一同で校歌を斉唱し、厳かな中に式を終了しました。



式を終えた後、組織の中の個人の役割を理解すること、また社会人としてのプロ意識の徹底を目的として新入職員研修が行われました。その中で、甲能直幸病院長から「新入職員に望むこと」と題して、「入職してはじめての2年間というのは非常に重要な時期であるということを肝に銘じてほしいと思います。この時期の10の努力は将来の100の結果につながるものであり、人間的にも技術的にも大きく飛躍する時期であること、また杏林学園では努力したら必ずそれが評価される、報われると考えておいてください。努力を惜しまず、そうしたことを通じて一味違った社会人になっていただきたいと思っています」とメッセージを贈りました。

診療科紹介

◆乳腺外科

乳腺外科は平成19年4月に国立がんセンター東病院から井本滋教授を迎えて新しく立ち上げた科です。常勤医は4名と少ない人数ではありますが、乳癌手術件数は年間で200件強であり、そのうち約7割は温存術を行っています。乳癌の治療は手術だけではなく、内分泌療法、化学療法、放射線療法を組み合わせた複合的な治療が必要となりますが、近年では分子標的薬剤を使用する抗治療法に関する研究も進んでいます。当科では薬物療法に関しては術前化学療法、多施設共同研究の一環として術前内分泌療法も施行しています。また手術分野についてはセンチネルリンパ節生検は勿論の事、切除せずに治癒を目指す治療方法としてラジオ波焼灼術についての研究も行っています。多摩地区の中核病院の一つとして近隣の先生方に専門的な点から情報を発信できるように今後とも努めてまいりたいと思います。



◆腎臓・リウマチ膠原病内科

当科では腎臓病とリウマチ、膠原病の内科診療をおこなっています。両方併せて外来患者さんは月2,500名前後、約40床の入院患者さんと26床の透析ベッドを有しています。腎臓内科として、さまざまな原因による腎炎、ネフローゼ症候群、慢性腎不全、糖尿病による腎症の患者さんなどの診療を行っています。また、外来・入院中の血液透析患者さんと約20名前後の腹膜透析患者さんの治療も行っています。当科では腎臓病と膠原病両方を専門とする医師が多く、全身性エリテマトーデスや膠原病などによる腎臓病の患者さんが多いのも特徴です。リウマチ膠原病では、およそ1,200人を超える関節リウマチ患者さんを中心に、全身性エリテマトーデス（SLE）、全身性硬化症（SSC）、多発性筋炎、皮膚筋炎、シェーグレン症候群、ベーチエット病などさまざまな膠原病の診療を行っています。特に、血管炎診療では、当科は本邦で草分け的存在であり、患者さんの人数も日本でも有数です。また、関節リウマチ治療の分野では、生物学的製剤を用いた先進治療で、他施設を大きく上回る診療実績があります。当科は専門性を重視しつつ、総合力に優れた内科医として、診療の実践に努めています。

■当院の医師ら4名が医療支援で被災地へ



東日本大震災で甚大な被害を受けた被災地の医療支援の為、当院の岩畔哲也医師（高齢診療科）、新井健介医師（研修医）、戸来廣明看護師（2-2A）、尾野敏明看護師（C-ICU）が3月31日からおよそ1週間、

岩手県大船渡病院で医療支援活動を行いました。

31日の朝に当院を出発した医療スタッフは、片道660kmを7時間40分かけて大船渡病院に到着。同じように支援に駆けつけた岡山大、自治医科大などのスタッフと日勤・夜勤など勤務体制を組んで診療等にあたりました。現地では津波による泥水の誤嚥で肺炎を発症した入院患者が多く、また担当した救急外来では、当初は昼食を取る暇もありませんでしたが、4月4日には一般外来が再開され、5日には同病院の常勤医師から「だいぶ通常の状態に戻ってきた」との言葉が聞かれるようになりました。

当院医療スタッフの団長を務めた岩畔医師は「病歴聴取をするたびに患者さんから壮絶な体験を聞くことが多々あり、被災者の方々のご心労を察すると本当に言葉が出ませんでした。看護師さんの中にも今でもテント生活を送りながら働かれている方もいらっしゃいましたが、それでも尚、笑顔で振舞う皆さんの「心の強さ」には大変感銘を受けると同時に、ただただ頭が下がる思いでした。大変な環境の中で、助け合う相互援助の精神を至る所で垣間見ることが出来ました」と話していました。

■平成23年度公開講演会上半期スケジュール

杏林大学では、本年度も医療・健康などをテーマに公開講演会を実施いたします。皆様のお越しをお待ちしております。 ※申込不要・入場無料

【会場】杏林大学 三鷹キャンパス大学院講堂

開催日／会場	時間	テーマ	講師
5月28日（土） 三鷹	13:30 - 15:00	口の中でわかる身体健康度	耳鼻咽喉科・顎口腔外科講師 池田 哲也
6月18日（土） 三鷹	13:30 - 15:00	心臓病と診断されたとき	循環器内科教授 吉野 秀朗
7月2日（土） 三鷹	13:30 - 15:00	薬剤がもたらす皮膚病変	皮膚科教授 狩野 葉子
9月10日（土） 三鷹	13:30 - 15:00	視力が低い・視野が狭い・中心が見えない人への日常生活支援 ～ロービジョンケアと視覚障害リハビリテーション～	眼科 / アイセンター 尾形 真樹
9月17日（土） 三鷹	13:30 - 15:00	分子標的薬剤による乳癌治療の最前線「基礎から臨床まで」	乳腺外科教授 井本 滋